

京都教育大学FDニュース

No. 40

2008年1月11日

FD委員：巻本彰一，中峯 浩，村上登司文、榊原典子

FD研修会（第2回）について

12月のFD研修会に続き、第2回の研修会を開催いたします。

今回も本学の先生方に授業の工夫についてお話しいただきます。授業改善の参考にしていただくために、皆様ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

記

日 時：平成20年1月16日（水）13:30～14:30

場 所：大会議室

研修内容：「私の授業の工夫について」

1. Learner Autonomy を目指した授業ー理論から実践力育成へー

泉 恵美子 先生

2. 学生からみた良い授業とは？

榎本 靖士 先生

3. わかりやすい、知的刺激力のある授業を目指して

奈倉 洋子 先生

FDフォーラム（第13回）のご案内 大学コンソーシアム京都主催

日 時：平成20年3月8日（土）13時～17時（情報交換会は17時15分～）

9日（日）10時～15時

テ ー マ：「大学教育と社会ーFD義務化を控えてー」

場 所：立命館大学 衣笠キャンパス

申込期限：2月10日（日）

申込方法：下記URLの申し込みフォームからお願いします。後日参加証が送られてきますので、当日ご持参ください。当日の参加申し込みは出来ない場合があります。

申込URL :

<http://www.consortium.or.jp/consortium/fd/fdindex.html>

参加費 : 3,000 円 (情報交換会除く)

参加費については、今年度も大学で負担されますので、当日立替えていただき、領収書を教務課にご提出ください。後日、口座へ振り込まれます。情報交換会に参加される場合は、別途 2,000 円を個人負担でお願いします。

【問い合わせ先 教務課 佐々木 (内線 8 1 4 6)、岡田 (内線 8 5 4 9)】

F D 研修会 (第 1 回) を振り返って

12 月 12 日の F D 研修会 (第 1 回) においては、ご多忙の折、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。

当日は、3 名の先生方に「私の授業の工夫について」話題提供いただきました。榊原は「自己評価と相互評価を導入して—教育実習への接続の試み—」と題して、履修期が教育実習直前である「中等家庭科教育Ⅱ」での実践について話をしました。教育実習に向けて、個々の学生が自らの課題に気づきその改善の方途がもてるように、模擬授業に自己評価と他の受講生からの相互評価を取り入れ、学生自身に実践的指導力をつけようとしている試みです。また、附属学校教科指導教員との連携についても紹介させていただきました。

続いて、数学科の渡邊伸樹先生には「学生自ら学ぶ授業へ— want to study と must study —」と題してお話いただきました。独特の巧みなプレゼンテーションもさることながら、そこに映し出される授業中の学生の能動的な姿に「学び」の原点をみることができました。授業中だけでなく、二百人からの「初等数学科教育」受講生の作成する分厚いレポートに丹念に答えることで学生の学びの姿勢に応え、学生のやる気を十二分に発揮させられているのには驚きました。配布いただいたレジュメから学生の声を拾ってみると、「(授業中) 暇な時間がない」「理論のみでなく実践で裏づけされているので納得せざるを得ない」「レポートが帰ってくる時、自分の足りなかった事が赤ペンで細かく指示されているので、今後の学習に取り掛かりやすい」等々で、授業改善に有効な指摘をみることができました。

最後に理学科広木正紀先生には「体を動かすグループ活動を中心に—授業者の話を減らす試行錯誤—」と題したお話を伺いました。先生ご自身の学生時代の体験と講義者として自分のスタイルを探られてきた経緯も踏まえて、今、大切にしようとしていることとお聞きしました。理科教育というご専門の立場から、「将来、理科を教える立場に立つ者として、受講者自身の『自然体験の場』として機能する授業」「物や現象をありのままの様子でよく見ることから出発する学びの体験」「安易に決めつけない (特に否定的な言動には) 態度をもたせる」を大切にしながら、受講者自らが追究し学びを獲得していく過程を重視された授業実践をしているとのことでした。

今回は教科教育担当の先生方のお話でしたが、それぞれ違った観点からの「授業の工夫」を具体的にお話いただき、参考にできることが得られた研修会でなかったかと思えます。